

IKGの旅館経営再生塾

第239回 なぜ同じ失敗を繰り返すのか？

㈱飯島綜研 代表取締役社長 孫田 猛

実践経営の現場にいる以上、常に付きまとうテーマは、理想と現状のギャップをいかに埋めていくかということだ。

いつも経営者の頭の中にあるのが、現状の収支バランスと資金繰りだ。我が旅館の理想的な財務状況については明確に描けていると思う。それを実現されたための要素のひとつである、顧客のニーズやウォンツにあった提供商品についてもある程度のビジョンは描けているだろう。

しかし、計画を立て、実行しても思いどおりにはいかず、過去を振り返ってみると、結局同じことの繰り返しであったという場合が多い。

われわれは実践の場にいるから、失敗したり新たな問題が起きたりすることは、よくある。ここで大事なのは、その失敗や問題をどう捉えて最善の策を速やかにとるかということと同時に、その根本原因を冷静に分析し、二度と同じ失敗を繰り返さないことである。

ところが現実には「同じ失敗」を何度も繰り返してしまう。それはなぜかということ、失敗の原因を検証していないか、失敗を繰り返さない方法を確立していないか、その方法を実践していないか、また実践してみたがやり方が不十分であるか、あるいはその方法ではだめだといういずれかの場合である。

経営者は、うまくいっていない現状から、うまくいく理想へシフトさせなければならない。そのためには、与えられた条件(人、施設、立地、金等)のなかでどのような順序で、誰が何をどれだけしていくことにより、理想の状態になるかという戦略を自ら構築し、実践していくことである。

プランは山ほどつくったが、結局うまくいっていないケースのでは、その経営者の行動パターンを客観的に分析・検証してみるといい。自ら立てた計画をある時点でストップさせている場面に出くわす。その時点で自らあきらめてしまうのである。

再生には決めたことをやりぬく熱い思いとパワーが必要だ。そしてそれをやり遂げるには何を犠牲にするかという覚悟が必要である。

そのうちのどれかがかけているから同じ結果になってしまう。

このまま衰退してもしかたないかという弱い気持ちが残っていたら、それが現実になってしまうものだ。

<http://ik-g.jp>
magota@ik-g.jp